

都 退 教 協 だ よ り

No.280号

2017年10月18日発行

東京都退職教職員協議会 会長 柴田 迪春

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

10月22日衆議院選挙！ 憲法改悪阻止・戦争法・共謀罪廃止、格差社会是正をめざす候補者の勝利を！

10月22日（日）衆議院選挙が行われます。安倍政権は、森友、加計学園疑惑を隠す大義なき解散総選挙で延命を図ろうとしました。

この選挙戦で安倍首相は「アベノミクス」の成果を宣伝していますが、私たちの医療・介護・年金などの給付は削減され続け、保険料などの負担は増加し「アベノミクスの恩恵は」全く受けていないばかりか、高齢者の貧困は一層拡大しています。

また、小池都知事率いる「希望の党」は、改憲、戦争法賛成を掲げ安倍政権の補完政党として名乗りをあげました。

今回の衆議院選挙は、戦争できる国づくり、憲法改悪、格差拡大を進める「安倍政権」と「希望の党」に国会を任せてはならないたたかひになっています。

一方、憲法改悪阻止、戦争法廃止、格差是正を掲げて安倍政治に対抗する立憲民主党

（代表・枝野幸男）が旗揚げし、野党共闘も進んでいます。

私たちは、「アベ政治を許さない！」「戦争法に反対し、憲法9条を守る」「戦争はさせない」ことを訴え続け、この衆議院選挙で私たちの訴えを受け止める候補者の勝利を目指すことが大切です。



秋の交流会のご案内ー紅葉の下町・向島百花園ー

恒例の秋の散策交流会は、向島百花園で開催されます。江戸文人がこよなく愛した百花園を楽しみ、白髭神社まで散策いたします。

日時：11月7日（火）11:00 現地集合

場所：向島百花園（墨田区東向島 3-18-3）

東武スカイツリーライン「東向島」徒歩約8分

京成電鉄押上線「京成曳舟」徒歩約13分

都営バス 亀戸-日暮里（里22）「百花園前」下車

参加される方は、谷口（電話 090-5202-0117）または東京教組（FAX03-5276-1312）までご連絡ください。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

散策のあと、懇親会（自費2～3千円）を持ちたいと考えています。

天皇制 それは国民の課題

及川輝治

-はじめに-

天皇の「お気持ち」発表に端を発した「生前退位」を軸とする天皇制問題は、特例法で一応の決着をみた。しかしこの間の検討・論争過程で、どれだけ国民に呼びかけられ、また参加してきたか大いに疑念を持つ。天皇の地位は「主権の存する国民の総意に基づく」ことが憲法上の大原則であるからだ。

しかもこの「お気持ち」発言は天皇明仁の最初にして最後の、自らの天皇という地位をかけての意思表示であった。国民は、あなたはどうか受け止めたのだろうか。確かにマスコミの世論調査では、圧倒的に国民は生前退位を支持した。「ご高齢です。ご無理をさせてはいけません」と。優しい国民感情である。

では国民を代表する国会での審議状況はどうであったのか。そこでは依然として天皇制はタブー視される。「静かに静かに論議を」と大声で強制され、満場一致に近い賛成で特例法は成立する。野党が憲法改悪反対・護憲から「お気持ち」に賛成したことが論争を低調にしたことは否めない。それも一つの天皇制論であろう。

天皇の願いはどこにあったのか。特例法はそれに応えているのか。天皇制についての本格的議論は行われたのか。今後も議論は継続されるのか。

確かな事実は、間もなく天皇一家の行事が大々的に、長期間に亘って行われることだ。アマテラスを皇祖神とし神武天皇から続く第126代新天皇の即位へと、絢爛豪華に、古式豊かに、秘儀、奇祭とも映る神事をも含めて。天皇「退位の礼」「即位の礼」「大嘗祭」そして「新元号」の制定など。

社会は天皇家行事一色に染められるだろう。

天皇制は日本特異の制度である。そこには日本の歴史、文化、宗教そして政治が深く関わりを持つ。皇室行事が華やかに展開される

中でも、本格論議の有無は別として天皇制は確実に歩みを進める。どの方向に向かうのか。

政治は激動の最中にある。私たち国民の責任、そのために今日までの経過、論点を整理し、今後の検討の素材を提供したい。

「お気持ち」の意味するものは何か (略)

「お気持ち」発言 「安倍内閣」との対立と結末 (略)

天皇位 天皇制 そのあり方を考える (略)

天皇制を考える視点—今後の課題

今回の天皇制論議は、天皇位にある明仁自身の発言で始まるという特異性を持つ。しかも論争過程で「お気持ち」に反対したのは、天皇制の堅持を最も強く訴える「日本会議」(安倍晋三も所属)であったことだ。その対立点は「天皇制の神格化」対「象徴天皇としての権威化」である。今後「天皇元首」の憲法改正は予断・即断できないが、神格化の道は法律とは関係を持たない。それは天皇位を「大祭祀」「民族の永世の象徴」と位置づける天皇制イデオロギーの問題であるからだ。その分野を担い、推進する中核組織が日本会議・神社本庁＝神政連である。

八木秀次が厳格に規定するように天皇位は世襲・血統・男系であり、能力主義と決別する。天皇位は人間天皇ではなく、天皇位に座す「偶像天皇」である。それ故に天皇は神でなければならない。江藤淳も能力主義を批判し、三島由紀夫も「神であらせられてほしかった」と2.26事件の青年将校、神風特攻隊で殉じた若者を思い出し、訴える。もちろん賛成するものではないが、確かに一つの論理、倫理でもある。

ここで天皇制護持運動の本流「日本会議」の目的を見てみよう。

「皇室を敬愛する国民の心は、千古の昔か

ら変わることはありません。この皇室と国民の強い絆は幾多の歴史の試練を乗り越え、また豊かな日本文化を生み出してきました。多様な価値の共存を認め、人間と自然との共存を実施してきたわが民族は、一方で伝統文化を尊重しながら海外文明を積極的に吸収、同化して活力ある国を創造してきました。

125代という悠久の歴史を重ねられる連綿とした皇室の存在は、世界に類例を見ないわが国の誇るべき宝というべきでしょう。私たち日本人は、皇室を中心に同じ民族としての一体感をいただき国づくりにいそしんできました。」(一部略)

「国際化が進み、社会が大きく変動しようとも、常に揺るがぬ誇り高い伝統ある国がらを、明日の日本に伝えていきたいと思えます。私たちはそんな願いをもって、皇室を敬愛する様々な国民運動や伝統文化を大切にすることを全国で取り組んでまいります」

明らかに皇国史観に依拠する見解である。

都心のど真ん中に大内山と呼ばれる皇居が存在する。天皇夫妻の居城であり天皇の権威を象徴するものだ。その家族 東宮御所に住む皇太子そして秋篠宮家を含む天皇家はわずか十人に過ぎない。彼らは一般人と違って「皇籍」に記載される。そして天皇家のために宮内庁がつくられ皇宮警察も存在する。この特別な存在 天皇を頂点とする天皇制の巨大な権威は、古い歴史と伝統、日本独特の神道に支えられてきた。それを国民は支持し、政治権力も天皇制に寄り添い支配を続けてきた。天皇はやはり「神」ではないのか。

一強を誇る安倍政権の政策「戦後レジュームからの脱却」も天皇制神格化と一体のものではないか。

前述したが共産党をふくむ野党は護憲の立場から「お気持ち」に賛成する。この立場を否定はしない。しかし、共産党は結党以来 反天皇制を党是としてきた。間もなく徳仁天皇が誕生する。今後この方針がどうすすむのか

影響は大きいと思う。

「事実上、戦前から天皇制廃止を唱えてきた共産党の敗北」(山崎正和)との評価もあるからだ。

一方自民党と政権を担う公明党の責任も問われる。天皇の神格化・国家神道への動きは政教分離の原則に明確に反する。創価学会を基盤とする公明党、修学旅行でその子弟が鳥居の下を通ることを拒否する事例もあるではないか。

一年後か、天皇即位・大嘗祭が始まる。この祭祀にはアマテラスも初代神武天皇も現れる。その秘儀の中で「天皇霊」の引継ぎが行われる。神話・皇国史観そのものの再現である。

天皇についての世論調査がある。

(NHK 生活世論調査 2013年実施 16才~29才の場合)

(尊敬の念をもつ 17% 好感を持つ 25% 何も感じない 55%)

これら祭典の中で国民の意識はどう変わり、特に若者はどう考えるだろうか。天皇制反対を叫ぶ声を非国民と糾弾する社会だけはあって欲しくない。

そのためには腰を据えて天皇制の歴史、古代史・中世史・明治天皇復権の歴史を、更に宗教、神道それを支える日本文化論、哲学の研究も欠かせないであろう。そして輝かしい日本の文化、伝統に新しいページを開くこと、誇れる日本人像を自らのものにするのを願うものである。

2017年8月5日

天皇「お気持ち」発言1周年を前にして

及川輝治

編集部注

及川氏の論文の一部を省略して掲載させていただきました。省略部分は(略)と表示しました。

戦時中見聞きしたこと

柴田迪春

＜東京に残された姉と私＞

私は東京の旧下谷区で生まれ育ちました。6歳になったばかりの1944（昭和19）年3月から姉と二人暮らしになりました。兄の「学童疎開」について、「集団疎開」は病弱のため無理だから「縁故疎開」となり、祖母がいる田舎に家族ぐるみ引っ越すことになったからです。

なぜ姉と私が残されたかは、姉が当時高等女学校2年生（今の中2）で、工場通いしていて、4月入学予定の私が、前年に足の障害で手術し、退院間もないので入学は無理と1年遅らせられました。ついでに言うと、入院中に幼稚園が閉園になったことと合わせ、私は「幼稚園中退・小学校浪人」となりました。

姉は「学徒勤労令」で、家を離れられず、一人で置くのは心配だからと、両親はそんな私を東京に残すことにしたのだと思います。

姉は工場で何をしているのか聞いても、当時は「秘密！」と教えてくれませんでした。敗戦後、「実は亀戸にある第二精工舎工場、機関銃の弾丸磨きをしていた」と明かしてくれました。

姉は「出勤」する前、昼食の用意もしてくれました。ただ時間が無いと、「どんぶり」一個とコインではない10銭紙幣2枚、それと外食券を「ちゃぶだい」の上に置いて、「今日はこれ持って大場さんち（食堂）の前に並ぶのよ」と言って出かけました。どんぶりを抱えて、20銭と外食券を握って、早めに並べば、ほとんどが芋や豆で、米粒などないような雑炊1杯だけ買えましたが、ちょっとでも遅れると、私の前の人で売り切れ、ということもありました。その日は昼食抜きでした。

同じころ、浅草国際劇場の近くから上野方面にかけて100メートル幅位の「強制疎開」（姉は「防火帯作り」だと言う）がありました。毎日通っていた「鶴の湯」もなくなり不自由しました。ただ、壊された跡に残っていた、ビー玉や空き缶などを拾ってきて遊び道

具に使いました。

しばらくして、近所中が空き家になった一軒の家に、越してきた家族がありました。子どもが居ると聞いて私は嬉しくなりました。自宅の前で、私が地面に何か書いていると、その子が出てきました。年齢も背格好も私と同じくらいでした。私が「何して遊ぶ？」と言うと、その子は「メンコ」をやるしぐさをしました。私が「メンコ？」というと、うなずきました。その日から、二人は毎日メンコで明け暮れました。ただ私にとって悔しかったのは、その子が「メンコ名人」だったことです。どうやっても私は勝てません。私の頭には、ただ「口惜しさ」だけ残っています。後日、その子が私の言葉は分かるのに、彼が一言も話さなかったのと、家族の様子などから、もしかしたら在日朝鮮人の子どもだったのでは、と思うようになりました。しかし、間もなくその子の家族がいなくなり、私はまた一人ぼっちになりました。

その頃から、「警戒警報」がすぐ「空襲警報」に変わるようになりました。多摩地区の軍需工場が爆撃されていたことは、後で聞きました。1945年3月10日未明、東京東部は320機を越えるB29による「焼夷弾爆撃」で焦土とされ、10万余人が亡くなり、我が家も全焼しました。私はその直前父が迎えに来て、1年ぶりに家族と再会していました。その直後の明け方、周囲の騒ぎで目が覚め、深紅に染まった南の方の空をただ眺めていました。一人東京に残された姉は、「警防団員」の「風上（西方）に逃げろ」の指示で、降りかかる焼夷弾の間をかくぐり、無我夢中で自転車をこぎ、谷中にあるお寺に駆け込んで死なずにすみました。そして、2週間後の夕刻、列車を何度も乗り継ぎ、近所に住んでいた叔母家族と一緒に無事田舎にたどり着きました。

2017・9・14

（柴田迪春 記）

東アジア海外研修旅行・シンポジウムにおける発言

日退教の第4回東アジア海外研修のシンポジウムにおける柴田廸春(都退教協会長)さんの発言を紹介します。

私は1938年2月、東京の下町に生まれ育ち、2003年3月までの40年間、高校・中学に勤務していました。

1945年3月10日の大空襲で家もろとも焼かれ、極端な食糧不足と合わせ貧困生活を味わいました。それも、戦争を憎み、平和を求める思いは、成長するにつれて強まり、戦争がなぜ起こるのかを考えるようになりました。そうした中で近代日本150年の半分を超える77年間は戦争の時代であることが分かりました。

その概要は、1874年台湾出兵、琉球処分、屯田兵による北海道アイヌ民族に対する攻略に始まる強大な武力行使を伴う朝鮮・中国を始めとするアジアに対する侵略です。最近の研究により、この構想は吉田松陰に連なる「明治の元勳」桂小五郎こと木戸孝允が「戊辰戦争」開始の1868年に公にしていることが判明しています。そもそも「戊辰戦争」は、将軍から天皇へ「首」を挿げ替えた「クーデター」だと思います。それは新政権の中樞が相変わらず「武士階級」で占められていたことで証明されます。

新政権は、「殖産興業」「富国強兵」を「国是」とし、軍備増強路線をひた走り、1894年の日清甲午戦争、「東学農民軍」殲滅作戦などで、朝鮮を侵略し、10年後、旅順港攻略を端緒とする日露戦争に突入しました。今回の大連・旅順訪問で、「日本帝国陸海軍」の企図が、中国全土に対する侵略であることが実感されました。また、日露戦争の本質が、あくなき利潤追求を図る大資本と日本陸海軍の結託であることは、高岩仁監督の「教えら

れなかった戦争」—マレーシア編—で明らかにされています。アフリカ南端を回り、インド洋から東シナ海を北上するロシア・バルチック艦隊が補給で寄港した各地に、駐在する三井物産の社員により、その動向が逐一日本海軍に打電され、これを迎え撃つ体制構築に大いに寄与していました。

また、1905年2月、セントペテルスブルグ(ペテログラード)において、戦争により生活苦を強いられた民衆が起こした蜂起により、東方に布陣していたロシア軍の一部を西方に戻らざるを得なくさせました。これは民衆の力が、戦争の早期終結をもたらす要因の一つになったものだと考えられます。

日露戦争における日本軍の「旅順の虐殺」が、その後の「三光作戦」(奪い尽くす、焼き尽くす、殺しつくす)から「南京大虐殺」へと至る日本軍による表しきれない「残虐行為」をもたらしました。私はそのルーツが「戊辰戦争」にあると考えています。「戊辰戦争」における「官(薩長)軍」の「会津藩攻略」によって引き起こされた惨状は、筆舌には尽くしがたいものであると、今も地元では語り継がれています。その一つは、9～10月の戦闘で倒れた一千数百体にも及ぶ会津藩戦死者の遺体は、翌年まで遺族の手に触れさせず、山野に放置されたままであったことです。それと、軍による略奪・婦女暴行などは「勝手次第」としたことです。そこには「勝てば官軍」という「尊大な奢り」が内在していたものと考えられます。

私は、歴史的事実を事実として認め、日中双方が歴史認識を共有できるよう、主として日本側の課題解決に努力していきたいと考えています。

2017/9/27

「日退教カンパ」へのご協力ありがとうございました。

前号で改憲阻止、沖縄のたたかい支援、脱原発、被災地支援などのための「日退教闘争カンパ」を呼びかけたところ、多くの会員からカンパをお寄せいただき、61,870円になりました。ありがとうございました。

カンパをお寄せくださった方々。

秋元清高さん、浅川謙司さん、荒木文枝さん、今関規子さん、石岡佳子さん、海老沢靖彦さん

及川輝治さん、小澤公夫さん、亀谷一郎さん、木場住郎さん、斉藤幸嗣さん、榎直人さん、坂本長則さん、鈴木忠雄さん、鈴木光子さん、関嘉夫さん、武本和代さん、竹山さん、伊達和子さん、田中泰道さん、谷口滋さん、生井栄一さん、福田恵子さん、藤井友子さん、別所勝也さん、前田文生さん、繭山紀子さん、山崎大輔さん、山中宇田子さん、竹田武司さん、由井鉄也さん、横山愛子さん、若山雅男さん

会費納入についてのお詫びとお礼

「日退教闘争カンパ」の郵便振替用紙に、会費未納の方のために「2017年度会費」と印刷したため、すでに会費を納入くださった方が再度納入していただく事態が起きてしまいました。お預かりした会費は来年度会費とさせていただきます。また、「すでに納入しました」とのご連絡もいただきました。事務局の不手際をお詫びいたします。

来年度分まで会費を納入してくださった方々は、右記の通りです。

秋田仁さん、荒木文枝さん、海老沢靖彦さん、片山政志さん、亀谷一郎さん、木場住郎さん、小林千恵子さん、小山昭さん、坂本長則さん、鈴木忠雄さん、武田好永さん、武本和代さん、田中公子さん、平井みや子さん、中村登さん、藤井友子さん、堀江昌江さん、繭山紀子さん、満下嚙さん、峰岸昭さん、山中宇田子さん、由井鉄也さん、馬庭恒夫さん、水越苑枝さん、岩田雪枝さん、河合新一さん

編集後記

- ◇ 憲法改悪を許さない3000万人署名にとりくみます。衆議院選挙により自公、希望など改憲勢力が2/3以上の議席になり連立政権を組むことになれば、一気に改憲へと突き進むことも考えられます。多くの皆さんの署名で改憲反対の民意を示そうと思います。署名を集め、同封の返信用封筒にて都退教協に送ってください。よろしく願いいたします。
- ◇ 会報「都退教協だより」で会員のみなさんの声をお届けして、会員の交流を図りたいと思います。近況や会員の思いを是非お書きくださるようお願いいたします。返信用封筒またはファックスで送ってくだされば幸いです。
- ◇ 10月6日、東京都人事委員会の勧告がありました。今年も給与の改定は見送られましたが、特別給（ボーナス）は0.1月分引上げ。特に教員の勤務時間の把握、超勤改善に触れていることが注目されます。
- ◇ 11月7日の秋の交流会。（1ページ参照）皆さんの参加をお待ちしています。
- ◇ 立憲民主党の勢いが刻々と伝えられています。立憲民主党をはじめとする戦争させない野党連合の勝利で、安倍政治を終わらせましょう。お住いの選挙区に立憲民主党の候補者がいない場合も棄権せず、戦争させない候補者を選ぶとともに、比例区の投票を必ずしましょう。あなたの一票を生かしてください。

(谷口記)